

代 表 者

視 察 報 告 書

令和2年2月7日

会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

沖 田 範 彦

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和2年1月30日（木）

2. 調査項目

岩手県住田町（有）気仙環境保全 鶏糞炭化処理工場について

3. 参加議員

沖田範彦議員

■調査項目

鶏糞炭化処理工場（バイオマス炭化炉（連続式、バッチ式））について

■調査対応者

（有）気仙環境保全 工場長 水野知広

■調査期日

令和2年1月30日（木）10時～

■調査目的

廃棄物の有効処理のあり方

■視察内容

このたびの視察は、同じ目的をもつ江田島市議3名（登地靖徳副議長、山本秀男議員、重長英司議員）と合同で行った。

まず、視察に先立ち、開発会社である前川製作所（株）の前川哲司社長に当炭化炉の技術的特徴等について説明を受けた。

バッチ式の導入事例としては、群馬県富岡市の公的病院で医療廃棄物、食品残渣物等を全て病院内で処理を行い、何のトラブルもなく、また、発生ダイオキシン、二酸化炭素も国の基準をはるかに下回る結果が得られていた。病院が新たに透析を行うこととし、そのため廃棄物の量が一気に増えることから2.5㎡の物に切りかえることになったが、導入に当たっては県の指導により、環境アセスの要請がなされ、1年をかけて住民説明を行ったが、約700名中7名の反対により断念せざるを得なくなり、やむを得なく外部委託処理に方針転換となって、現在では設置事例がないとのことであった。連続式については、岩手県住田町、全農、プロイラー農家の3者が共同出資した（有）気仙環境保全に導入され、13年間トラブルがなく、しかも炭化過程における排気ガスを熱源として自然の状態で、新規燃料を使用せず稼働処理を行っているということであった。

そのことを踏まえ、（有）気仙環境保全の工場を視察した。

水野工場長の対応により、工場内を案内していただき、装置の流れやシステムの説明を受けた。

処理量は毎日7トン車4台で搬入され、1日約60トン持ち込まれ、年間1万8,000トンの鶏糞入りの敷材を処理、農家はそれぞれ処理費を負担しているが、炭化した炭は有価物として土壌改良材、融雪材、燃料として売却し再活用している。

装置もほとんどトラブルなく連続運転されており、また、臭いについてはゴルフ場と隣接しているため心配されたが、問題になることもなく処理されていた。

■呉市での展開の可能性

江田島市は、ごみ処理について呉市の焼却工場で委託処理しているが、呉市の焼却施設も9年後には更新も検討されてくることから、何か費用対効果の高い、環境に配慮された処理方法の検討をしておかなければならないと考えており、今回の合同視察となったが、これまでのようにただ焼却してしまうということではなく、再利用再資源化の方向も視野に入れ、研究をしていくことが大事ではないかと考える。よって、炭化することも1つの選択肢として十分検討に値するのではないかと思考した次第である。